

研究要旨見本

余白
上下：2.5 cm
左右：2.5 cm

25 mm
タイトルの左を
空ける

タイトル

△△高等学校（化学部）
○芝浦太郎・○豊洲理子
指導教員：大宮次郎
(一行あける)

←高校名だけでもよい
←氏名(発表者の前に○をつける。指導教員の所属が所属校と異なる場合は明記すること)

【研究概要】

6～8行で概要を書く。研究の目的、具体的な実験内容、およびこの研究のオリジナリティが、専門家でなくても分かるように工夫して書くこと。行間は1行程度とし（必要ならば多少は変更してよい）、フォントはMS明朝の使用を推奨する。フォントサイズは10.5～11 ptを使用すること。参考文献がある場合には該当する箇所に上付き数字を次のように記すこと¹⁾。参考文献の内容は「5. 参考文献」にまとめて記載すること。

English abstract: 研究概要は日本語だけでなく必ず英語でも書くこと。英語による研究概要は6～8行以内の英語で簡潔にまとめること。行間は1行程度とし、フォントはTimes New Romanの使用を推奨する。フォントサイズは10.5～11 ptを使用すること。日本語の研究概要の完全な英訳である必要はなく、自然な英語の文章になるように、ニュアンスに変更を加えてよい。日本語による研究概要で記した参考文献を英語の研究概要でも記入する場合には、日本語による研究概要に記載した上付き数字を次のように記すこと¹⁾。

【研究概要図】 研究の内容を表す図や写真等を記載。

研究内容の要点や全体像が視覚的にイメージできるように工夫すること。

余白
上下：2.5 cm
左右：2.5 cm

2～4 ページに本文（以下の項目）を記載する。
行間、フォントサイズ、図のレイアウトは各自で工夫すること。

1. 背景と目的

- ・背景は、社会的な課題、一般的な興味、実際にこれまで行われてきた研究など、自分たちのグループの実験だけでなく、調べた内容などを書くことで、研究の立ち位置やオリジナリティーを明確にするために必要。
- ・目的は、具体的な実験内容を含め、何を明らかにしたいのか明確にすること。
- ・自分たちの考えや研究ではない箇所には参考文献を加えること。

2. 方法

- ・方法は結果と考察と一緒に書いても良い。
- ・具体的に「行なった」ことを書く場合、必然的に過去形で書く。

3. 結果と考察

- ・結果と考察では、研究により得られたデータなどを詳細に議論し、その意味や意義を考察する。必然的に本要旨の中心となる箇所である。
- ・その分野の専門家ではない人が読むことを意識し、結果・考察ともに、分かりやすい文章で説明すること。
- ・考察は実験結果を説明するものであり、感想とは異なる。

4. 結論

- ・「背景と目的」で述べた内容に対して答える。
- ・「結果と考察」で述べた内容から要点を絞り、まとめる。

5. 参考文献

- 1) 参考文献著者、「著書」、出版年、ページ番号など。
- 2)
- 3)

作成時の注意事項

要旨の構成

1. WEB 上にある「template_gracon2026.docx」ファイル) をダウンロードし、作成してください。
2. A4 用紙 4 ページ以内で作成します。1 ページ目に研究概要、2 ページ目以降に本文を作成して下さい。
3. 上下左右 2.5 cm の余白をとって下さい。設定はフォーマットの「文書のレイアウト」から確認できます。
4. タイトル、所属、氏名、研究概念図、本文は、日本語または英語で作成して下さい。「研究概要」は日本語、「English Abstract」は英語で書きます。

1 ページ目、研究概要について

1. 1 ページ目は見本を参考に、研究概要、English Abstract、研究概念図で構成します。このページは要旨集等に掲載され、広く公開される可能性があります。
2. タイトル (MS ゴシック / 14 pt) : 自分の研究内容が他者に理解できるタイトルをつけて下さい。
3. 学校名と氏名 (MS 明朝 / 12 pt) : タイトルの下に行を空けずに記入して下さい。研究に関与した人の氏名を書いて下さい。ただし、一人の生徒が複数のチームに参加し、応募することはできません。発表者 (単独でも複数でも可) は氏名の前に○をつけて下さい。
4. 指導教員は複数のチームに名前が重複しても構いません。先生が共同研究者になるか、ならないかは審査に影響しませんので、担当の先生とよく相談して下さい。
5. 研究概要の書き出し前に 1 行 (空行) を入れてください。
6. 研究概要 (MS 明朝 / 10.5~11 pt) : 6~8 行程度で、研究の目的、具体的な実験内容、この研究のオリジナリティを分かりやすく書いて下さい。
7. Abstract (Times New Roman / 10.5~11 pt) : 6~8 行程度で、海外からの招聘校の生徒にも分かるように、研究概要を英語で簡潔にまとめて下さい。日本語の研究概要と単語や文法を含め、完全に同じになる必要はありません。
8. 研究概要図 : 研究を知らない人が見ても、研究の大事な箇所や面白さが分かるように、図や写真、それらの説明等を組み合わせることにより、研究概要を示す視覚的な図を作成して下さい。
9. カラーで作成して構いませんが、要旨集では白黒に印刷されますので、一度白黒で印刷するなどして、コントラストを確認しておいて下さい。
10. 以上を、必ず 1 ページ目で完結するように作成して下さい。

2 ページ目以降、本文について

1. 本文（MS 明朝や Times New Roman を推奨）：2 ページ目以降に背景・目的・方法・結果と考察・結論（又は、まとめ）・参考文献などを書いて下さい。小見出し（1. 背景と目的、2. 方法、3. …）の構成は見本通りでなくても構いませんが、それぞれの内容の記載は必要です。
2. 本文の行間、フォントサイズ、図や表のレイアウトは自由です。読みやすさも審査項目ですので、工夫して作成して下さい。
3. 本文は 3 ページで完結させて下さい（研究概要と合わせて 4 ページ）。
4. 図や表には番号をつけ、本文内にも書いて下さい（「〇〇の結果を図 1 に示す」や「表 1 から〇〇がわかった」など）。写真を挿入する場合は解像度に注意して下さい。
5. 結論（まとめ）は方法・結果・考察の内容から重要な箇所を抽出して伝えるとともに、目的に対応するように作成して下さい。今後の展望などを含めても構いません。
6. アンケート調査等を含め（無記名式を除く）、人間を対象とした研究の場合は被験者の同意書が必要です（被験者が未成年者の場合は保護者の同意書も必要となります）。被験者の同意を得たことを研究要旨中に必ず記載して下さい。
7. 参考文献は次の書き方例を参考にして下さい。異なる書き方でも構いませんが、他の人が後で参考文献を探せるように配慮し、WEB サイトを書く場合はアクセスした日付が必要です。

書き方例

- 1) 阿藤 質、分析化学 改訂増補版、培風館、1967、p. 71.
- 2) 小林憲司ほか編、化学の世界への招待、三共出版、2009、pp. 141-149.
- 3) 竹田淳一郎、炎色反応と金属イオンの定性反応、化学と教育、2015、63 巻 7 号、pp. 348-351.
- 4) S. Omura, *Tetrahedron* 2011, 67, 6420-6459.
- 5) 産業技術総合研究所、質量の単位「キログラム」の新たな基準となるプランク定数の決定に貢献 https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20171024/pr20171024.html
(2022 年 5 月 1 日アクセス)

提出時

1. 作成した WORD ファイルを PDF ファイルに変換して提出して下さい。
2. PDF ファイルを作成するには、「ファイル」の「プリント」から「PDF として保存」を選びます。
3. ファイル名は「高校名_生徒代表者氏名」として下さい。

以上